2006 大津茂巳と 砂の器

Shigemi Otsu Sunano Utsuwa

鳥取砂丘

中国山地の花崗岩質の岩石が風化し、千代川によって日本海へ流されたあと、海岸に集まったものが砂丘の主な砂となっている。海中の砂を海岸に向けて流れ寄せる潮流と、海岸線に堆積した砂を内陸へ吹き込む卓越風の働きで形成された。

砂丘は千代川の東西に広がっているが、通常「鳥取砂丘」というと、千代川の東側の 545ha の「浜坂砂丘」を指す。砂丘によって海から切り離されて出来た湖である多鯰ヶ池がすぐ南東にある。

最大高低差は 90m にもなり、すり鉢に似た形に大きく窪んだ「すりばち」と呼ばれる地形も有名で、特に大きなすりばち（「すりばち」、「大すりばち」などと呼ばれる）は 40m の高さにもなる。すりばちの斜面にあり、簾を連想させる「風簾（ふうれん）」といった模様や、風速 5 ～ 6m 程度の風によって形作られる「風紋（ふうもん）」と呼ばれる筋状の模様も有名である。

僕と砂丘との出会い

僕が鳥取砂丘に始めていったのは今から 25 年前の夏、1982 年。

当時高校生だった僕は、少ない旅費を手に国鉄久留米駅から各駅停車に乗ったのを今でも覚えている。当時は写真家植田正治さんに憧れ、絶対に砂丘に行かなければと言う衝動に駆られていた。純粋な行動で撮影した砂丘の画像は今も僕の中で、『まほろば』という記録の一部で息づいている。

あれから月日が流れ再度訪れたのは昨年 2006 年 5 月。砂丘に着いたとき感じた凄い事は、砂丘に着いたとたんどこに何があるのかが・・・つまり 25 年前がそこにあったのだ。しかし、その反面今と昔の写真を比べると砂丘が痩せてることにも気づいた。

砂丘は今・・・瀕死の状態になっているのかもしれない。だからこそ記録として、昔の自分を残すためにも昨年はもう一度砂丘を訪れた。

・・・・・・それが『砂の器』

僕の history・・・・・

僕と阿波紙との出会い

モノクロームの黒は昔なら銀、インクジェットならインクの色ですが白は紙の持っているモチベーションである紙白なのです。紙が選べないのならば、モノクロプリントの半分は死んでしまいます。

昨今の銀塩ではもう印画紙を選べないのが現状です。そんなときに僕はインクジェットプリントのオリジナルプリントに出会い、今回使用した阿波紙に出会ったのです。

日本の伝統である紙漉で作った和紙には独特な力があります。それが僕の『砂の器』に力をくれました。この紙に出会ったのだからこそ、砂丘を表現できたのかもしれない・・・

2007 年 12 月　大津茂巳

Profile
大津　茂巳　　Shigemi Otsu
http://www.asahi-net.or.jp/~kb4s-oot/
shigemi@mac.com

写歴

1980　アマチュアとして写真活動をはじめる。
1982　グループ展『旅猫』を福岡県柳川市で開催
1998　恵雅堂出版株式会社　写真部でプロカメラマンとして活動開始
2000　グループ展『Distance』三人の距離をボンカラー Gallery で開催
2006　個展『まほろば』を 26 日の月 Gallery Bar で開催
　　グループ展『vector space』9 人の写像を Roonee247photography で開催
　　グループ展『S.O.S』を Gallery LE DECO で開催
2007　グループ展『私ときどき他人』を Gallery LE DECO で開催
　　個展『雲上の楽園』をキヤノンギャラリー　銀座・名古屋で開催
　　グループ展『vector space plus』を Gallery LEDECO で開催

「砂の器」オリジナルプリント販売します

仕様：サイズ A3 297mm×420
紙質：AWAI.J.P　阿波紙びざん厚口

販売価格：￥12,000

お申し込みはホームページ
（http://www.asahi-net.or.jp/~kb4s-oot/）からか、
直接メール（shigemi@mac.com）でお願いします。